

4月9日16:16

第5便ボランティアメンバー

イエス・キリスト喜びの教会（旭川ナザレン教会） 後藤従明牧師 他1名
伊達福音教会（同盟） 三浦称牧師
札幌キリスト福音館 三橋恵理哉牧師 他3名
千歳アドナイ国際キリスト教会（福音自由）
札幌新生キリスト教会

以上、現在のところ9名で、4月10日夜から向かいます。
お祈りください。

4月12日12:52

ホクミン第5便活動報告

1日目 4月10日（日）

20:00 札幌キリスト福音館にて、今回の札幌キリスト福音館からのメンバーと札幌新生キリスト教会のメンバー、旭川イエスキリストよろこびの教会のメンバー計8名が合流しました。
その後、荷物の積み込みをし21:00 苫小牧の港へ向けて出発。

22:00 苫小牧到着。ここで伊達福音教会と千歳アドナイ国際キリスト教会からの今回のメンバーが合流しました。
今回は計10名のメンバーです。深夜0:00 出発のフェリーへ乗り込み青森へ向けて出発しました。



フェリー内でのデボーションとミーティング風景。チームがまず心を合わせて祈るところからスタートしました。

2日目 4月11日(月)

10:00 青森を出発し久慈アレン教会へ立ち寄りました。



久慈アレン教会



久慈も被災した地域でしたがこのあたりは無事だった地域でした
その後、野田村に被災された方への届け物をしに立ち寄りました。
津波による震災の痕が建物に残っています



中のチェックと片づけが終わっており解体待ちのようでした



このお寺の奥も避難所になっています



避難所付近には仮設トイレも設置されていました

この日の目的地は岩手県の宮古だったので、沿岸を視察しながら向かいました。
津波の被害で無事だった場所と被災地は車でほんの数分の紙一重の場所でした。



沿岸沿いの被災した地域。



がれきの中に車や船なども混ざっています。



ここは跡形もなく流されていました。



被災しながらも営業を再開しているスタンドなどもありました。



船が凄いの状態で道路下に突っ込んでいました。



被害や停電により信号が機能していない場所も所々ありました。



(写真 20) 作業中

海沿いは津波の被害のため街灯も何もなく、電気がほとんどないため日が落ちるとあたりは真っ暗でした。

夕食時に、今回お世話になっている盛岡聖書バプテスト教会の牧師先生たちが来てい主の恵みの証を聞かせていただきました。



(写真 21) 夕食の様子

祈りをもって、この日の日程は終了しました。

4月13日

ホクミン第5便活動報告

3日目 4月12日(火)

この日の活動は、宮古市の避難場所にて子供達を対象としたボランティアと、田老町での炊き出し、支援物資の配達、避難所への訪問、情報収集、被災地域の視察などでした。

被災地で人手が必要な場所があれば何でもしますというスタンスでお宅の訪問なども行い、被災家屋の後片付けや清掃、泥や瓦礫の撤去なども行いました。

この日は宮古コミュニティーチャーチ、同盟教団のチーム、盛岡聖書バプテスト教会、室蘭グロリアチャペルの高橋さんなど、教団、教派、教会を超えて沢山の方達と協力して活動することができました。



(写真1) 支援物資を詰めた車輛の様子です。



(写真2) 出発前に今回のホクミンメンバーでの集合写真です。



(写真3) 協力教会の宮古コミュニティーチャーチです。
ここで炊き出しの準備と同盟教団のチーム、盛岡聖書バプテスト教会のチームなどと合流しました。



(写真5) 宮古コミュニティーチャーチにて出発前に賛美と祈りの時間をもち出発しました。



(写真6) 目的地へ向かう道中。復興作業が続いています。



(写真7) 自衛隊の方の姿も沢山見かけました。



(写真8) 仮役場である田老町総合事務所を吹き出しと支援物資配達の拠点とさせていただきました。



(写真9) このような掲示板が仮役場の前に設置されていました。



(写真 10) 被災地から出てきた写真のアルバムなども保管されていました。



(写真 11) 仮役場から見た沿岸の堤防前の風景です。震災直後は道路も何もかもが瓦礫に埋もれていたそうです。



(写真 12) この日の炊き出しはおでんでした。



(写真 13) 住宅の清掃中です。



(写真 14) 住宅内の瓦礫の撤去作業中です。



(写真 15) 住宅内の泥の撤去作業中です。



(写真 16) 瓦礫撤去後の住宅内の一部です。



(写真 17) 住宅の周りには瓦礫が山になっていて、まだ中に瓦礫が溜まっても、道路が塞がってしまうため、行政が撤去しに来るまでこれ以上は外に出せないという住民の方の声を聞きました。



(写真 18) どこの家の前も瓦礫の山です。これでもかなり綺麗になったと聞きました。



(写真 19) 一軒一軒、炊き出しのおでんと支援物資を持ってお宅を訪問しました。



(写真 22) これからの必要物資など、後日報告があります。



(写真 23) 宮古小学校での、子供達との関わりのボランティアの様子。



(写真 25) 子供達はとても喜んでいました。



(写真 28) そして子供達だけではなく、コミュニケーションが必要な被災者の方が大勢いました。あわせてお祈りください。



(写真 30) 今回協力させていただいている宮古コミュニティーチャーチ、同盟教団のチーム、盛岡聖書バプテスト教会の方達。



(写真 31) 視察と今後の日程を確認しに避難所のグリーンピアへ。



(写真 32) この地域で津波の被災の最も強かった沿岸部のガソリンスタンド。



(写真 34) これはローソンです。見る影もありません。

今回の震災の被害を目の当たりにしました。

特に堤防の内側の住宅街は何もかもが流されていて、震災以前の景色をまったく想像できませんでした。

この視察の後、宿泊先へ戻り、ホクミンチームと同盟教団チームと一緒に夕食の時間を過ごしました。

参加メンバーの自己紹介と、今回の活動に参加した経緯や感想、証などを分かちあい、とても恵まれた時となりました。

皆さんのお祈りと支援、協力がありこの働きは祝福されているということを深く感じます。

そして、主の御名を賛美します。ハレルヤ！！

本日は以上です

4月15日

ホクミン第5便

四日目は、前日の夜に到着した聖契キリスト教会のチームと12日から引き続き一緒に宿泊している同盟教団のチームと3チーム合同で朝のデボーションを行い、賛美と祈りを持って働きに出かける備えをしました。

この日は大槌町への物資の配給、今後どんな物資、支援が必要かなどの調査、作業全般の手伝いなどの働きを目的とし出発しました。



聖契キリスト教会のチームと同盟教団のチームとホクミンでの集合写真。



まず最初に訪れたのは介護施設の城山の杜です。



介護のボランティアの必要や、実際に滞在型で来てくれているボランティアの方がいること、震災から現在までの様子や必要物資のことなどお話ししてくださいました。



ホクミンからは大人用のオムツなどの物資を届けさせていただきました。



続いて訪れたのはおさなご幼稚園という幼稚園です。近隣の沢山の住民の方達が入り出りして、物資の保管場所になっていたり、ボランティアの方の拠点にもなっていました。



ここでも食料から生活用品、薬に至るまで、多種多様な物資を配達させていただきました。



園内の様子です。2階が支援物資の保管場所になっていました。僕らのほかにも、電気工事のボランティアの方、瓦礫撤去の作業の方、子供と遊ぶボランティアなどさまざまな方が活動されていました。



物資の様子です。

その後、第3便、第4便でも奉仕させていただいていた、やはりショップさんへ。



ここでは、数人で分かれて、やはたショップさんの店内をお借りして近隣の住民の方への物資の配給、近隣の住宅を一軒一軒まわっての支援物資を配達、近隣住宅のフェンスが倒れていたため簡易的な復旧のお手伝い、その他今後必要な物資や働きを聞いてまわるなどの活動をさせていただきました。



物資の配給の様子。



仕分けの様子。

今回の実質的な活動はこのやはたショップさんでの働きが最後でした。

後日報告と引継ぎがあると思いますが、働きに関してはありとあらゆる働きが必要だということがわかりました。

物資を運ぶこと。肉体作業。介護。看護。

子供から大人までのコミュニケーション、僕達が北海道で暮らしているそれぞれの街と同じように、街が機能するために必要な人材、活動は全て必要なんだと思いました。

もちろん教会もです。

そして現地ではそのほとんどが機能していない状態でした。

このやはたショップさんも、近隣に店がないため車がないと買い物ができない住民の方も多いうことで、一日も早く店舗を復旧させて、住民の方達の助けになりたいと話されていました。

物資としてはやはり衣食住に関わるものが第一に必要であると聞きました。

ふとんなどの寝具や、毎日の作業で使う作業服や長靴なども必要とのことでした。

そして長期的に滞在できる人材や一箇所で重点的に活動していくことの必要もあると感じました。

この日の夜、フェリーにて今回のチームでの働きの感想や今後の活動へ向けての分かち合いを行い祈りをもって第五便のチームでの働きを終りました。

個人的な感想ですが、三日目に津波の被害を受けたお宅の作業をお手伝いした際に、

そこのご主人さんが、家をリフォームして今後もその場所に住み続けるつもりだという話を聞いて、正直とても心配になりました。

またいつ地震や津波があるかもわからない地域だからです。

私達一人一人が常に祈り続けること、時間が経つにつれて忘れてしまっていくのではなく、被災地のことを覚えて関心を持ち続けること、その必要性を強く感じました。

さまざまな教団、教派を超え、たくさんの活動をさせていただけたこと、全ての働きの上に主のまもりと恵み、祝福が豊かにあったことを感謝します。

今回の活動や被災地の様子、神様の癒しと回復、そして一致の御業を教会内外で強く証していきたいと思えます。

以上第5便チームの報告とさせていただきます。

ハレルヤ！！